

学校番号	15	学校名	東部特別支援学校伊東分校	校長名	長崎良夫
------	----	-----	--------------	-----	------

1 目指す学校像

(1) 学校教育目標「つたえあう つくりあう たかめあう人」

「つたえあう つくりあう たかめあう人」として次のような人の育成を目指す。

【知】【徳】	豊かなコミュニケーションができる人 (知=コミュニケーションの力 徳=人や物との豊かな関わり)
【知】【体】	つくること、はたらくことを楽しむ人 (知=はたらく力 体=元気な体づくり)
【徳】【体】	生活する力がつき、感性や生活の質を高めていく人 (徳=感性や質 体=健康なくらし)

「あう」という言葉の中に、地域や交流校と共に活動し、共生社会の実現に寄与する学校を作るという思いを込める。 教育目標の具現化に向けて、児童生徒の生命と健康を尊重し、一人一人の個性の伸長と自己実現を支援する教育に努める。そのための学校の具体像として、

- ①児童生徒が安心して学べる学校
- ②児童生徒が高い専門性に基づく教育を受けることができる学校
- ③児童生徒が地域と共に育ち地域に対し役割を果たす学校
- ④教職員が仕事を通し自己実現できる学校

の4点を掲げ、地域社会に開かれ、保護者、地域から信頼される楽しい学校づくりを目指す。

伊東分校は、令和5年夏、現在地に移転し新しい学校作りを進めてきた。本年度は、職員一同力を合わせ、地域の社会資源を取り込み一層連携を進めつつ学校運営を軌道に乗せたい。

2 目標具現化の柱

- (1) <守る> 安全に配慮され、のびのびと安心して学べる学習環境を整備する
 - ア 安全・安心を守る学校組織の機能充実
 - イ 人権を尊重した教育、困難を抱える児童生徒への連携した支援
- (2) <育む> 高い専門性に基づき、自己実現に向け個に応じた指導・支援を展開する。
 - ア アセスメントによる課題把握に基づく指導・支援
 - イ 年齢段階に応じたキャリア教育の充実とキャリアパスポートの活用
- (3) <つなぐ> 「地域の中で共に育つ児童生徒、地域の中で役割を果たす学校」をめざす。
 - ア 校地が離れた学校間の新たな交流方法・共同学習の工夫
 - イ 地域との一層の連携促進、地域資源の活用推進
 - ウ 地域のニーズに即した特別支援教育のセンター的取組の充実
- (4) <高める> 教職員が互いに支えあい高めあい、仕事を通して自己実現できる環境を作る。
 - ア 地域から信頼され、教職員にとって働きがいのある学校を作るための業務改善
 - イ 職員がそれぞれの強みを生かし、互いに支えあう職場風土の醸成

3 本年度の取り組み（重点目標）

(1) <守る>安全に配慮され、のびのびと安心して学べる学習環境を整備する

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	担当部署
ア	安全・安心を守る学校組織の機能充実			
	(ア) 予防的な安全確認によるリスク管理	・月1回、校内の安全を複数職員で予防的視点からチェックし、必要箇所には緊急度に応じた対策を講ずる	・校内において児童生徒の重大事故発生がなかった。 ・計画に基づき定期的に予防的点検、環境整備が行われた。	保健安全課 企画会
イ	(イ) 発災時の初動体制共有と1次避難後の対応整備	・地震・火災想定を年2回ずつ、土砂災害想定1回の訓練を実施する。 ・1次避難後の職員対応体制を整備する	・全職員が初動体制を理解し、児童生徒が落ち着いて避難できた。 ・避難場所運営計画が作成された	防災危機管理課
	人権を尊重した教育・困難を抱える児童生徒への連携した支援			
	(ア) 一人一人の人権意識向上と共有	・学期1回ずつ、教員人権チェックまたはグループワークを実施。	・教職員の不適切な指導ゼロ	生徒指導課
	(イ) 必要な児童生徒への家庭・関係機関と連携した支援	・長期休業時の研修で児童生徒の困り感や家庭支援への理解を深める。 ・必要な児童生徒には関係機関と連携し支援会議で課題を共有する。	・支援が必要な児童生徒が確実に把握され、校内の各職種や関係機関で連携した支援体制を作ることができた。	生徒指導課 各学部 地域支援・進路課

様式第1号

(2) <育む> 高い専門性に基づき、自己実現に向け個に応じた指導・支援を展開する

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	担当部署
ア	アセスメントによる課題把握に基づく指導・支援			
	(ア) 個の課題に応じた専門性の高い指導	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒を、自立活動の視点や認知発達段階等から多角的に実態把握するための研修を行う。 ・子ども理解に基づく課題設定や支援に焦点をあてた授業研究を年2回実施する。 ・Ipad等情報機器の活用事例を紹介し、効果的な利用を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1人の児童生徒の「良さ」に着目して具体的指導方法を検討して授業を実践できたとする教員8割以上 ・情報機器活用で分かりやすい、楽しいと感じる児童生徒が8割以上。 	研修課 自立活動課 情報教育課
イ	年齢段階に応じたキャリア教育の充実とキャリアパスポートの活用			
	(ア) 系統性を考えたキャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢段階に応じてキャリア教育を意識した単元を設定。個の実態に応じふりかえりや共有につながるキャリアパスポートを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各段階でキャリア教育を意識した単元が設定され、学んだ内容がキャリアパスポートに整理されている。 	地域連携・進路課

(3) <つなぐ> 「地域の中で共に育つ児童生徒、地域の中で役割を果たす学校」をめざす。

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	担当部署
ア	校地が離れた学校間の新たな交流方法・共同学習の工夫			
	(ア) 新たな方法での学校間交流推進	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスを使った直接交流と情報機器等を用いたオンラインによる交流、作品展示などの間接交流とをハイブリット形式で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部各学年でと伊東小との直接交流が開始された。 ・中学部で伊東北中との共同学習が年4回実施された。 	各学部 共生・共育推進委員会
イ	地域との一層の連携促進、地域資源の活用推進			
	(ア) 地域の分校理解推進 新たな地域資源の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・年5回の分校だよりやHPの随時更新による教育活動の情報発信。 ・関連団体へ学校施設を開放したり共同学習の場を設けたりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・新校地周辺の方と共に学ぶ場が企画され、湯の花商店街との交流活動も年2回継続実施された。 	学部・学年 情報教育課 地域連携・進路課
ウ	地域のニーズに即した特別支援教育のセンター的取組の充実			
	(ア) 地域のニーズ把握と教育力向上の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣市町教育委員会と連携し、幼児保育教育機関、小中学校、高等学校の支援ニーズを確認し専門的な支援を通してセンター的機能を担う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見学会等を通じセンター的役割の説明が行われた ・利用後に支援が役立ったと考える機関8割以上 	地域連携・進路課

(4) <高める> 教職員が互いに支えあい高めあい、仕事を通して自己実現できる環境を作る。

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	担当部署
ア	地域から信頼され、教職員にとって働きがいのある学校を作るための業務改善			
	(ア) 不祥事要因の分析によるコンプライアンス研修充実	<ul style="list-style-type: none"> ・不祥事根絶に向けて所属意識を高め、定期的な注意喚起を行う。グループワーク形式の研修により、不祥事要因の分析と検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不祥事要因と防止のための注意点が共有され不祥事の発生がなかった。 ・交通安全上の注意点が共有され重大事故がなかった。 	管理職 企画会
イ	職員がそれぞれの強みを生かし、互いに支えあう職場風土の醸成			
	(ア) 個々の強み生かした配置と職員相互の理解促進	<ul style="list-style-type: none"> ・職員個々の個性強みを考慮した人事や学部学年分掌内の役割分担 ・長期休業等を活用し相互理解を目的に年2回のグループワーク実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営に参画できたと考える職員8割以上 ・グループワークの効果があったと考える職員8割以上 	管理職 企画会

様式第1号